

令和2年度使用中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択結果等について

採択地区名 江田島市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	光村	<ul style="list-style-type: none"> ○単元名と単元の目標を別に示しているため、目標が分かりやすい。 ○1年次から代表的な古典の文章を幅広く取り入れており、単元の導入の音読作品や写真、図版などの資料により、興味・関心を引く工夫をしている。 ○巻末には文法事項や国語の学習活動、実生活に活用できる題材、読書教材等があり、主体的に取り組むことができる。 ○本編、学習を広げるの2部から成る。 ○4教材に挿入されている図表は、「写真と図」「絵」「写真・図・表・グラフ」「写真・表」というタイプの異なるものである。文章を記述する際の図表の役割や効果について理解しやすい。 ○「読書案内」などで主体的に読書をしたり、語彙を豊かにしたりできる箇所がある。（5教材＋図書紹介）「読書感想文の書き方」が掲載されていて活用できる。
書 写	教出	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元ごとに示し、「目標」と明記しているため分かりやすい。 ○興味・関心を高めるためのコラムや資料は12ページ（ページの一部分を含む）ある。専門的な知識を得る内容と現代の生活に直結する内容との量のバランスが良い。 ○第3学年に硬筆の学習題材がある。 ○毛筆の筆使いは薄墨と朱の二色で示している。筆の写真を使って、ポイントとなる部分の筆使いを説明しているため、穂先の通り道や筆の動きが分かりやすい。 ○各学年に「学習を生かして書く」があり、原稿用紙、レポート、手紙、新聞、掲示物（ポスター）、案内状、メッセージカードなどの書き方が掲載されているため、場面に応じた書き方が分かり、日常生活に活用できる。
社 会 (地理的分野)	日文	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元の終わりに「○○州をふりかえる」を設けている。中単元の終わりに「世界の諸地域をふりかえろう」を設けている。 ○「東北地方」では、小単元の導入において、見開き2ページにわたり地図、写真、グラフ、生徒の吹き出し、「読み取ろう」を記載しており、興味・関心を高める工夫がされている。 ○発展的な学習に関する内容は、世界の様々な地域の小単元に各1ページ6教材、日本の様々な地域の単元に各1～2ページで10教材である。 ○イラスト・写真等については、絵図や図表・グラフなどの量のバランスがとれている。見開きの学習内容を深める作業学習、理解を深める特設ページを掲載するなど、工夫がみられる。 ○見開きごとに、「学習の確認と活用」として「確認」と「活用」の2つの問いを提示しており、学習の状況に応じて活用できるよう工夫している。また、多様な問いが提示されている。 ○「世界の様々な地域の調査」においては、調べたい課題に対応した調査方法を例として示している。また、仮説に基づいた調査の流れになっている。また、1ページにレポートの例と合わせて、吹き出しでレポート作成の手順を示しており、他の様々なレポートの作成に汎用させることができる。

種 目	発行者	採 択 理 由
社 会 (歴史的分野)	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○タイトルの左横に問いかけの形態で学習課題を提示している。 ○「近代の日本と世界」では、導入において、1869年に江戸城に入る天皇の絵図、江戸幕府と明治政府の歳出のグラフなどを掲載しており、内容が豊富で興味・関心を高めるのに優れている。 ○発展的な学習に関する内容は、18記載されている。 ○毎時間、導入の資料に対しての疑問文を吹き出しで示している。 ○「近世の日本」の【学習の活用】では、資料を多面的・多角的に捉えさせ、自分の考えを書かせる問いを設定しており、工夫されている。
社 会 (公民的分野)	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きごとにタイトルが示されており、タイトルの左横に問いかけの形態で学習課題を提示している。 ○「市場のしくみと価格の決め方」の導入で、「海外旅行のパンフレット」を用い興味・関心を高めるとともに、疑問を投げかけ思考させるところが優れている。 ○「チャレンジ公民」では、今日的課題を多く盛り込んでおり発展的な学習につながる工夫がみられ、優れている。 ○「日本国憲法の制定と三つの基本原則」でのキャラクターの「日本国憲法と大日本帝国憲法はどこがちがっているのかな。」の問いかけは、歴史的内容と関連付けており、学習を深めるのに非常に効果的である。 ○「地球規模の環境問題」における「学習の確認と活用」において、地球環境問題の原因と影響をまとめさせたうえで、自分ができる地球温暖化対策について考えさせるようにしており、多面的・多角的に考察させるための工夫がされている。
地 図	帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○「日本の位置とまわりの国々」で近隣諸国を含む地理的環境を記載している。日本の領域、日本の排他的経済水域について示している。また、地図上の4地点における日の出と日の入りの時刻を記載しており、経度差による時差がわかりやすい。 ○地図活用のスキルが身につくよう、また、地図への着眼点が理解できるように、地図を見る上での着眼点を示した「地図をみる目」、地図から読み取る学習活動や言語活動を促す「やってみよう」を掲載しており、興味・関心を高めるための多くの工夫がある。 ○陸の高さや海の深さが、地図に応じて細かく色分けされている。各ページに「陸高と水深」が記されており、分かりやすい。 ○縮尺が大きいため、見やすい。 ○巻頭に地図帳の使い方として、オーストラリアを例に「この地図の使い方 地図帳の構成」を記載している。「オセアニア州の資料図」についての解説を記載している。キャラクターの吹き出しによる記載内容がシンプルであり、資料をどのような視点で活用すると良いか分かりやすく、調べ学習に地図帳を活用させやすい。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
数 学	学 図	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2次方程式の指導の流れでは、因数分解を利用した解き方、次に平方根を利用した解き方の順で、生徒が理解しやすい。例題の解き方がノート形式で分かりやすく表記されている。 ○ 1次関数の単元末に、印刷料金の比較を扱った課題や新車購入においてガソリン車とハイブリッド車の購入時費用とガソリン代から年間単位での総費用の安さを考えさせる課題を設定している。生徒の興味・関心を引き出すとともに、自学自習に取り組める工夫をしている。 ○ 発展的な学習の問題数は、第1学年7問、第2学年6問、第3学年13問で、どの学年も充実している。 ○ 球の体積について、半球の体積と底面が半球と同じ半径で高さが2倍の円柱の体積が1：3になっていることを4枚の写真で示しており、球の体積の公式が写真から理解できる。 ○ 第2学年の文字式の利用における問題構成はよい。問題数は4問であり、量的にもよい。
理 科	啓 林 館	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末のまとめでは、大切な用語が添付のブルーシートで隠せるようになっており、基礎・基本の定着及び理解に有効である。 ○ 発展的な内容・生活に関連する内容・科学史に関わる内容がバランスよく、掲載されている。また、巻末に地域資料がついており、使いやすく、興味・関心を高めるために有効である。 ○ 補充的な学習としての単元末問題のページ数は45.5ページあり、発展的な学習の取扱いに関する内容は68個掲載されている。また、別冊のマイノートに補充的な内容が220ページ用意されており、補充的な学習については非常に充実している。 ○ 第1学年の火山の形とマグマの粘りけに関する資料において、見開き2ページを使い、火山の形、溶岩の色、噴火のようす、マグマの粘りけと火山の例を、写真や図を用いて構造的にまとめ、視覚的に示している。 ○ 第2学年の「電気とそのエネルギー」の電流による発熱量の学習において、時間と温度上昇、電力と温度上昇の関係を別々にグラフにしてあり、発熱量が時間と、また電力とそれぞれ比例していることが示されている。実験における考察の視点は示されており、まとめ方の例が提示してある。
音 楽 (一般)	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次の教材名の上に学習の目標を示すと共に、該当ページ見開き左上にも横書きで大きく、学習の目標を示している。 ○ 全7曲の共通教材については、第1学年2曲、第2学年2曲、第3学年3曲の配列である。全7曲とも見開き2ページに、歌詞と写真、「作者について」を掲載している。また、共通のタイトル「心の歌」として取り上げ、目次に「共通教材」の記載がある。 ○ 「創作」における学習活動については、各学年とも「My Melody」「Let's Create!」を設け、旋律と旋律以外の創作活動が区別されており、分かりやすい。 ○ 創作活動を歌唱や鑑賞分野と関連させながら配列しているため、系統性をもたせた指導がしやすい。 ○ 各学年とも、目次に「発展的な学習（学習指導要領の示す範囲を超えた学習内容で、必要に応じて学習するものです。）」と示すとともに、口絵や鑑賞教材を掲載したページに、写真と文章で記述している。 ○ 目次、音楽学習MAP、該当ページで歌唱共通教材には「心の歌」という共通のロゴを示している。白を基調とした落ち着いた紙面であり、楽譜等が見えやすく分かりやすい。

種 目	発行者	採 択 理 由
音 楽 (器楽合奏)	教芸	<ul style="list-style-type: none"> ○目次でそれぞれの楽器について「～を演奏しよう」という目標を示している。 ○和楽器の取り扱い方では、楽器の名称や姿勢とかまえ方、奏法などを写真や図で示していると共に「和楽器こぼれ話」「音を聴いて確かめよう」のコーナーを設けている。文章を囲んであるので分かりやすい。 ○巻末ではリコーダーの運指表とギターのコード表、いろいろな記号などの表を掲載している。また、日本の伝統音楽の楽器編成を掲載している。 ○イメージをした情景を書く欄と、創作した曲を書く欄を設けている。また、創作するためのヒントを多く掲載しているため、使いやすい。 ○楽器の構え方や奏法に関する写真は、全部で 20 種類を掲載している。特に打楽器が詳しく、分かりやすい。 ○「アンサンブルセミナー」の「聖者の行進」では、学習活動を Step 1, Step 2 の順で具体的に示しており、分かりやすい。また、友達と話し合いながら活動できるような工夫がされている。
美 術	日文	<ul style="list-style-type: none"> ○「東へ、西へ・・・」では、大きく見開きで、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」及び「凱風快晴」が、和紙を使い 4 ページにわたり掲載されており、浮世絵のすばらしさや美しさを実感できる。浮世絵の下部には技法などの詳しい解説がされている。 ○ユニバーサルデザインについて、美術 1 及び美術 2・3 上の教科書で取り扱っている。「使いやすいデザインを考えよう」では、マグネットとクリップの工夫されている箇所や、それを使った感想を載せた生徒のリサーチレポートを掲載しており、身近にあるユニバーサルデザインのよさを実感させる指導に有効である。 ○「絵や彫刻など」、「デザインや彫刻など」の枠組みをインデックスで示し、各ページの分野が明確にされている。さらに、鑑賞・表現の違いを色分けし、分かりやすい。 ○色彩に関する資料は、折り込みを含め 3 ページある。写真数 14 点、配色の具体例数 10 点と資料が充実している。日常生活に密着した具体的な説明が掲載されている。 ○「魅力が伝わるパッケージ」では、グループでデザインを説明し合ったり、プレゼンテーションをしたりしている写真が掲載されており、デザインの構想を練るプロセスが分かりやすい。
保健体育	学研	<ul style="list-style-type: none"> ○「ウォームアップ」で「～すればよいのでしょうか」等の形態で、学習課題や内容に関わる質問を提示している。小単位によっては複数の課題が提示されている。また、グラフや図を基に考えさせる問いを設定しており、工夫されている。 ○実習や調査を実施するための資料の数が多く、充実している。 ○実生活と関連づけて自分自身の生活の振り返りを促す場面が多い。 ○発展的な学習に関する内容が学習できるように、本編と関連させた資料を掲載している。「探究」という名で充実した研究課題が例示されており、発展的な学習内容の理解へと知的好奇心が育成されるよう工夫されている。 ○「ウォームアップ」及び本文の中で、学習内容に関連した写真やイラストを掲載している。 ○学習方法として、事例を用いたディスカッション、ブレインストーミング、課題学習、調査方法等の解説を掲載している。言語活動を含む内容に「言語」及び「協働」のマークを付しており、工夫されている。

種 目	発行者	採 択 理 由
技術・家庭 (技術分野)	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○「情報に関する技術」に自己評価と「大切な用語」がある。「大切な用語」には用語が出たページの記述があり、容易に復習ができる。また、記述式でまとめる問いや、具体例を挙げて発展的な内容を調べてまとめられるようになっている。 ○単元の導入に「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」などが設定されている。題材は、身近なもので、絵や表を用いて具体的に分かりやすいものが多く、興味・関心を持たせることができる。 ○どの領域も、「領域に関する知識」「実習」「評価・活用」の順で章立てしているので「知識」「技能」「思考」の力をどこでつけるかがはっきりしている。 ○発展的な学習については、4カ所設定されている。市販のモジュールを活用するという発想が興味をそそるが、完全にブラックボックス化されがちな難易度が高い教材である。 ○「安全」「衛生」について、細かく説明されており、図解入りで丁寧に説明されているものもある。両刃のこぎりを用いた切断に関する「安全」は、材料の固定、工具の取扱いについての確かな注意がなされている。 ○「エネルギー変換に関する技術の評価・活用」の単元では、グラフや図表が多く、複数のグラフや表から考えて説明させる授業を展開しやすい。また、評価・活用にはまとめの例があり、まとめ方の要点がイメージしやすく説明をするための資料作成に役立つ。
技術・家庭 (家庭分野)	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統と文化に関する内容に「伝統・文化」のマークを付け、写真やイラスト、文章などを載せ、事例を紹介している。「日本の特徴ある住まいを見てみよう」として、13の県を紹介している。気候・風土・家の仕事・町並みに分けて掲載しており、分かりやすい。 ○各項目の最初に「話し合ってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」を記載し、興味を高めるようにしている。 ○調理については、視覚的に理解しやすいように写真が大きく掲載され、作り方の手順と写真をリンクして手順ごとに区切って分かりやすく説明している。「組み合わせ調理の手順(例)」はタイム表で分かりやすく記載されている。 ○発展マークとともに12箇所の記事があり、それぞれ見開き2ページを使って掲載している。各領域の目次に「発展」の記事をしているので、何ページに記載されているのか分かりやすい。 ○「リンク」として、教科書の中で関連するページや技術分野に関連すること、他教科(教科名、単元名)に関連することが記載されている。 ○巻末資料として、「言語活動の充実のために」で、考えたり、判断したりする力や表現する力を身につけるための流れや、書いて気持ちを伝える例を全4ページ掲載している。
英 語	東書	<ul style="list-style-type: none"> ○不定詞の副詞的用法を用いて書く活動は、生徒にとって身近で、自分の生活とも結び付けやすい場面設定になっている。また、場面も複数設定されており、英文の例示にならって書きやすい。 ○3年生の日常と密着している場面の単元では、ステップ1：基本文の練習→ステップ2：モデル対話の練習→ステップ3：アレンジ対話練習という順序で、スモールステップで対話文を定着させられるような工夫がされている。 ○2年生の学習到達目標は、単元毎に設定されている。 ○1年生の自己紹介をさせる場面の単元の構成は、2番目に、内容を絞った部分スキット作りが2段階に分けられて示されており、生徒

		<p>が無理なく内容を定着させられる工夫がされている。3番目に、到達目標を明確に示した上で、英文を書きやすいように内容を考えさせる工夫がされている。4番目に、リスニングが組まれており、内容も生徒の興味を引きやすいものになっている。</p>
--	--	---